

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○						○	○		○	○	○	○	○

企業の概要

企業・団体名	株式会社INAP Vision	本社所在地	東京都
業種	情報通信業	総従業員数	20名
事業概要	CXコンサルティング事業／CXシステム開発事業／ICTシステムインフラ・クラウド事業		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	テレワーク勤務規程
テレワーク担当部署	全社員
テレワーク対象者	全社員
実施者数	13名
平均実施日数	月12回以上16回未満程度(概ね週3~4回)

テレワークの導入・拡大の経緯

- 2016年3月の設立当初より、育児や介護と仕事の両立のためにテレワークを導入していたが、新型コロナウイルスの影響から、テレワーク制度を本格導入し、テレワークの対象者を拡大、推奨してきた。
- 2020年には清算期間3カ月のフレックスタイム制を導入し、ワークライフバランスの取れた多様な働き方が可能となった。
- また、あらゆる業務の電子化を行い、ペーパーレス化されたことで、これまで以上にテレワークを行いやすい環境を整えた。現在では約9割の社員がテレワークを行っている。

テレワークの概要・特徴

【概要】

- 現地作業が業務である社員以外の全社員を対象とし、可能な限りテレワークを行うよう推奨。
- 所定労働日数の3分の2以上テレワークを行った場合にはテレワーク手当を支給する。
- テレワークを行ううえで、コミュニケーション不足が一番の問題点であると考えているため、その問題を解決し、スムーズに業務が行えるよう整備した。

【特徴】

- 清算期間3カ月のフレックスタイム制を導入した。
- バーチャルオフィス、コミュニケーションツールの導入。
- 電子帳簿保管法に対応させ、契約書等のやり取りや保管を電子化し、ペーパーレス化した。
- ライトニングトーク(LT)を定期的に行い、スキルアップとコミュニケーションの場を設けた。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

【経営にもたらした効果】

- 残業時間が減少し、これまで以上にワークライフバランスのとれた充実した生活ができているとの声やテレワークで通勤時間がなくなったため、時間に余裕ができたとの声が上がっている。
- テレワークが増えたことによる交通費や接待費の削減、ペーパーレス化による備品コストの削減。
- 経費が削減された分、テレワーク手当や、特別手当の増額、業務の電子化整備のための設備投資を行うことができた。
- 業務の電子化により、完全テレワークが可能となったため、居住地を選ばなくなったことで、遠方や地方に住む社員を雇用することが可能になった。1度も対面せずに、面談や雇用契約を行い、沖縄や福岡在住の社員も雇用している。
- 通勤が難しい高齢者や障害のある求職者を採用可能になった。本年、通勤が難しい61歳の社員を新規採用した。
- テレワーク環境が整ったことで、台風などで交通障害が起こったとしても通常勤務を行うことが可能になった。

【コミュニケーション面での効果】

- バーチャルオフィスを活用することで、会社と同様に対面のように気軽に会話や会議を行えるようになった。
- コミュニケーションツールのMOCHIP(弊社開発)を活用し、非対面になったことで交流出来なくなった同僚とも交流しやすくなった。また、従来よりも気軽にコミュニケーションが取れるため他部署との関わりが増加し、コミュニケーションが活発化した。
- ライトニングトーク(LT)をプレゼン形式で定期的に行うことで、個人のスキルアップになるうえ、部署を超えたコミュニケーションのきっかけとなった。